



紙飛行機通信

香川大学 教職大学院 ニュースレター

9



さらなる充実へ

専攻長 武藏博文

平成28年度に開設した教職大学院は4年目を迎えました。今年度は、現職教員学生13名と学部卒学生5名を新たにむかえ、2年目の3名を加えて、21名の学生でスタートしました。

教職大学院の特徴は、現職教員学生一人ひとりの個性にあると思います。様々な問題意識、学校現場の課題をもって集まってきます。一緒になって、講義で討議や省察を繰り返します。それぞれが置籍校等において、学校経営や授業実践、個に応じた指導を試みます。

フレッシュな学部卒学生もいます。その柔軟さ、率直さ、そして若さが大きな可能性となるでしょう。本物の「職員室」のような院生室の中で、教職の実際を学んで吸収し、大きく育っていくようです。

教職大学院では、令和2年度に向け、改組に取り組んでいます。教科領域の教育を含めて、3コースそれぞれを充実させます。学生定員も、担当する教員も増えて、さらに活発となるでしょう。本学の特色である「発達支援の理念に基づく」を踏襲しつつ、新たな方向を切り拓いていこうと思います。

皆さんにご協力、ご支援をいただくことが多々ありますが、よろしく願いいたします。



香川大学大学院 高度教職実践専攻 入学式の日に

2020年度からの新たなステップへと向かう本学教職大学院

- ★ 次年度からの一層の充実をめざした改組を予定しているため、募集要項の配布は8月下旬を予定しています。概要掲載のパンフレットにつきましては、各教育関係機関に送付させていただきました。2020年4月から下記のような点で、より充実した内容となるように改組を予定しています。
- ★ 学生定員が14名から20名になります。
- ★ 専任教員も増員し、より充実した授業科目の内容改善を行います。また、学校危機管理に関する科目や教科教育に関する科目の一部新設を行います。
- ★ 「特別支援教育コーディネータコース」が「特別支援力開発コース」と名称変更します。
- ★ 「特別支援力開発コース」は、学部卒学生が入ることができるようになり、特別支援学校教諭専修免許状が取得できるようになる予定です。

令和2年度入試のご案内

入試日程につきましては以下のよう
に予定しております。(詳細はお問い合わせ
ください。)

A日程	2019年11月30日(土)
B日程	2020年1月25日(土)
C日程	2020年2月29日(土)

8月24日(土)13時より、教職大学院
説明会を本学幸町北キャンパス(研究交
流棟)にて開催します。詳細については、
ホームページをご参照ください。

●十河 広志

私は実習が印象に残っています。附属小学校で実習を行う際、講義での学びを生かすべく授業を多様な視点で参観しました。留意したことは新学習指導要領を踏まえた教育活動や評価などです。また、授業後にはリフレクションを綿密に行いました。指導教員や教授、院生からご指導いただいたり、ビデオで撮影して一つ一つの活動を振り返ったりしました。今後も講義と実習それぞれの学びを結び付けて、実習をより豊かなものにしていきます。

●山地 俊徳

毎年12月に「香川の教育づくり発表会」が行われます。昨年度も、教職大学院の修士生が、フォローアップ・プログラムの一環として、在学中の研究を生かした置籍校での実践事例を発表して下さいました。理論と実践の往還に基づいた発表内容は、非常に説得力があるとともに、新たな視点を取り入れた事例から、学び続ける教師の姿を見せて下さいました。今後、私自身も貪欲に学ぶ姿勢を大事にして励んでいきたいと思っています。

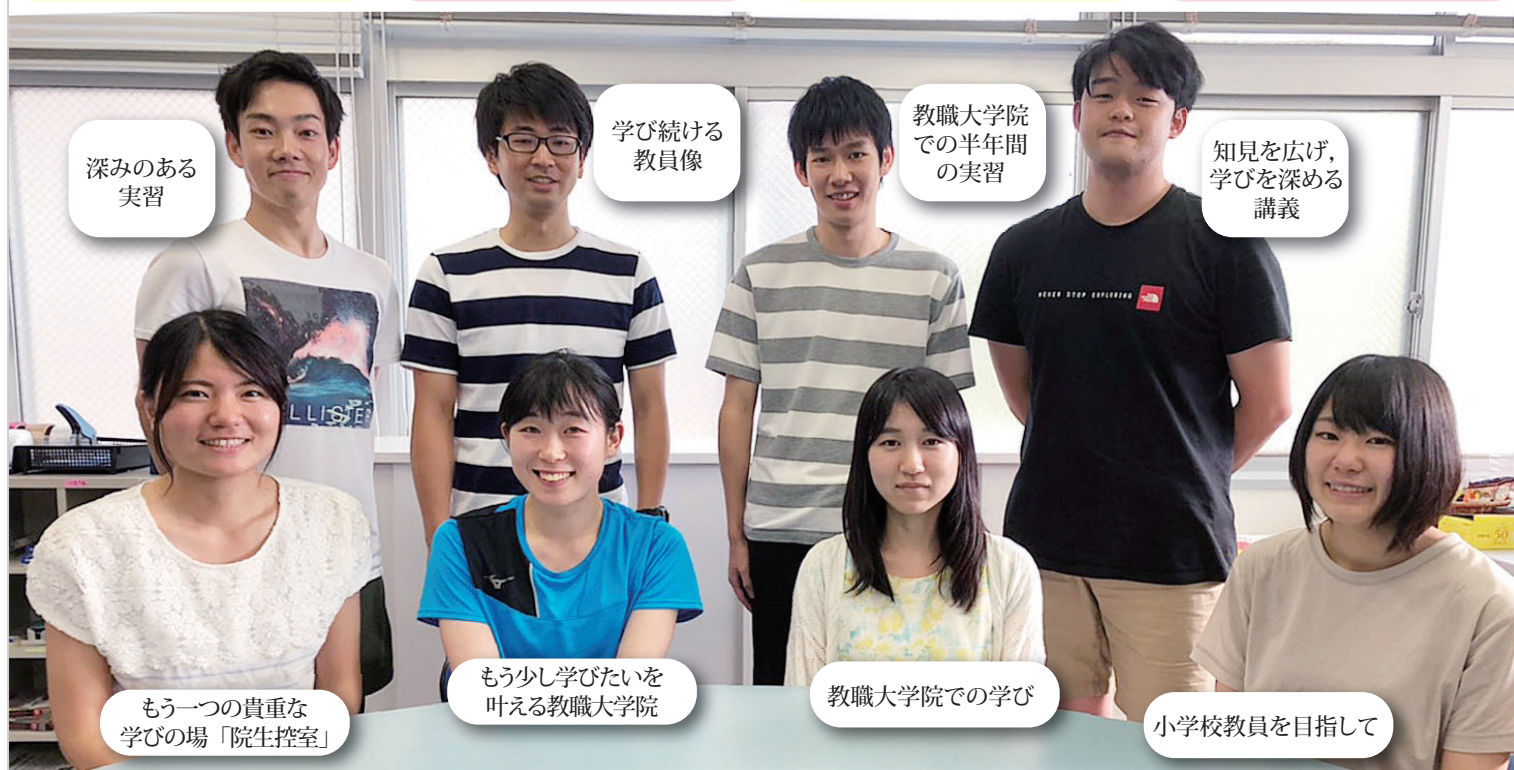
●石床 尚也

私は、教職大学院に来てからの半年間で、実習が一番印象に残っています。私は理学部数学科出身で学部時代の実習は1回だけでした。学部時代の実習も多くの学びがありましたが、教職大学院での実習では授業や学級経営などの力が徐々に身につけていると実感しながら過ごしています。その中でも一番大きいのは、自分が授業した後に実習担当の先生が具体的なアドバイスをしてくださるので、半年間でも大きく変わったと感じています。

●森岡 翔哉

教職大学院に来て、本当によかった——。夜、ベッドの上で今日一日を振り返るとき、私はいつもそう思います。その理由は、日々の講義にありました。

講義では、知見を広げ、学びを深めるべく、現職教員学生と学部卒学生と一緒に討議に臨みます。現場の生の声を聞けるだけではなく、私のような学部卒学生も自分の意見を表現できる機会が多いです。充実感でいっぱい時間を、教職大学院でともに送ってみませんか。

深みのある
実習学び続ける
教員像教職大学院
での半年間
の実習知見を広げ、
学びを深める
講義もう一つの貴重な
学びの場「院生控室」もう少し学びたいを
叶える教職大学院

教職大学院での学び

小学校教員を目指して

●別所 遥

教職大学院の院生控室では、現職の先生と学部卒生が机を並べて一緒に研究に取り組んでいます。実習の授業づくりで悩んでいる時には、隣の先生が実際の子どもへの反応や教材について、現場経験をもとにたくさんお話してくださいます。また、先生方の温かい声かけが聞こえる院生室は、まるで現場の職員室のようです。教職大学院の魅力は、専門的な教養を学べる授業だけでなく、この院生控室で先生方と交流もできることだと思います。

●松原 玲奈

教職大学院では修士論文のかわりに教職実践研究発表というものが、これは私たちストレートマスターにとって2年間取り組んだ研究の集大成を発表する機会となります。

「こういう授業をしたらどうなるかな?」「これって子供たちの学びに活かせるのかな?」など自分自身が研究したいと思う内容を思う存分に研究し、そして発表することが出来るので、現場に出る前にもう少し学びたいという方にはぴったりだと思います。ぜひ一緒に学びませんか。

●大野 明子

教職大学院の授業は学部の授業と違い、座学だけでなくディスカッションを多くしています。ディスカッションの中で校種による見方考え方の違いや、現職の先生方の実体験を踏まえたお話など多くの学びがあります。また、学部の授業では学びきれなかった学校経営や教科の本質など今までの考えからさらに一歩踏み込んだ学習ができます。現職の先生から、今の教育の実態を知りながら教育について日々学ぶことができます。

●藤川 結稀

「小学校の先生になりたい!」夢を叶えるために、私は県外の大学から教職大学院に進学しました。大学院と学部の講義の両立は大変ですが、ここで出会ったみんなに支えられ、充実した時間を過ごしています。また、大学院で学んだことと学部の講義で学んだことが結びついたとき、自分にとって深い学びができていると感じます。小学校教員になりたいという思いを諦めずに、教職大学院に進学してよかったなあと思心から思います。